



創立1880年

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18 日本キリスト教会館6階 Tel 03-6302-1960 URL http://tokyo.ymca.or.jp 発行所 公益財団法人 東京YMCA 発行人 菅谷 淳

# 東京YMCA 6

2023

## 東京YMCAの使命

東京YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神にもとづいて、青少年の精神、知性、身体の全人的成長を願い、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるための運動を展開する。

# 第20回東京YMCA会員大会

## 山手で開催 海外からの視聴も



「第20回東京YMCA会員大会」が5月27日、山手コミュニティセンターで開催され、会場には73人が集いました。テーマは「つながる喜びを感じよう」。コロナ禍以前にも増して活気あるYMCAとなるよう、また、YMCAに連なっていることの再確認や新たなつながり作りのきっかけとなることを願い、準備されました。会場に集えぬ人もつながるためにYouTubeでの同時配信が行われ、海外からも視聴がありました。

### 4年ぶりの集型開催

第一部の開会礼拝に始まり、第二部は菅谷淳総主事による東京YMCA活動報告と表彰。今年度の会員部運営委員には、スタッフ委員を含めて下記の23人が選ばれました。続いて、名誉会員に、長年にわたり広くYMCAにご貢献いただいた山本和さんと推挙されました(下中央記事)。「ユース・ボランティア・オプ・ザ・イヤ」は、各



センターでの活動において主導的な役割を果たしたリーダー4人が受賞し(II2面)、時田敏雄会員部運営委員長より表彰状が贈られました。東京YMCAで活躍されたボランティアに贈られる「ボランティア・オブ・ザ・イヤ」は、「中国語の聖書に親しむ会」や東京YMCAの運営に関わるご奉仕により、昨年十二月に召天された仲田達男さんが受賞(II左下)。菅谷総主事より退任される会員部運営委員7人に感謝の辞が述べられた後、ユースボランティアリーダー代表の8人に委嘱状が授与されました。Bと職員のギターに合わせ、キヤンペンソングを歌



第三部では、YMCAの国際協力活動より、「ウクライナ支援」「パンフレットラッシュ」の報告がありました(II2面)。

### 離れていても「つながる喜び」

会場の外では、東日本大震災被災地支援の石巻物産展とフードパントリーのためのお菓子販売コーナーが設けられ、多くの方に協力いただきました。また、パンフレットラッシュ訪問団は、国際協力募金を呼びかけました。東京YMCAを軸としてつながる国内外の遠く離れた場所にいる人々のことも思い、「つながる喜び」のテーマにふさわしい大会となりました。2030年、東京YMCAは創立150周年を迎えます。未来に向かって、YMCAの社会的信頼と使命を大切にしながら、会員と共にさらなる活動を進めてまいります。(広報室)

## 2023年度会員部運営委員

YMCAの会員を代表して各種活動を企画、運営し、会員増強なども担うのが「会員部運営委員」です。委員は毎年の会員大会で推挙され、任期は一年。

- 【再任10人】**
- |       |       |       |       |
|-------|-------|-------|-------|
| 大橋めぐみ | 佐久間春枝 | 林 正人  | 御園生好子 |
| 小原史奈子 | 須田 哲史 | 平山 恵子 | 綿引 康司 |
| 藏知 浩  | 東矢 高明 |       |       |
- 【新任5人】**
- |       |       |       |  |
|-------|-------|-------|--|
| 菰刈 光彦 | 郷田 典子 | 中村 周三 |  |
| 小口多津子 | 鈴木 雅博 |       |  |
- 【スタッフ委員】**
- |       |       |       |       |
|-------|-------|-------|-------|
| 堀 雄二  | 大津 桃子 | 小野 実  | 小松 康広 |
| 秋田 正人 | 沖 利柯  | 口原恵美子 | 波多 啓造 |
- 【退任7人】 \*任期満了**
- |       |        |       |       |
|-------|--------|-------|-------|
| 上田 晶平 | 榊原 正人  | 保坂 天蒼 | 蒔田 敏雄 |
| 近野 準一 | 長谷川あや子 | 本川 悦子 |       |

### Volunteer of the Year 仲田 達男さん



仲田さんは、20年以上にわたり毎月1回「中国語の聖書に親しむ会」を指導。中国語、ギリシャ語、日本語のテキストを比較しながらの丁寧な指導は、受講者に、文化的にも信仰的にも新しい世界の扉を開きました。開催回数は285回を数え、会の継続と発展に情熱を注がれました。また、1950年に中央大学YMCA(白羊会)に入会されて以来70年近く、東京YMCAの会員として多方面にわたり貢献されました。1982年に英語専門学校運営委員に就任し、以降、常議員、常議員会議長、監事、3カ年計画推進委員長等を歴任。1993年からは理事として、2003年から6年間は理事長として、東京YMCAの運営を導かれました。東京八王子ワイズメンズクラブのメンバーとしてもYMCAの活動を支えて下さいました。仲田さんの長年のご奉仕に心より感謝します。

### 名誉会員に推挙 山本 和さん



山本さんは、UNICEF財務局長としてニューヨークに赴任中、東京-ニューヨークYMCAパートナーシップ(現東京-フロストバレーYMCAパートナーシップ)プログラムに関わり、在米日本人家族や子どもたちをサポートしました。帰国後は、東京YMCAアドバイザーに就任。東京YMCA常議員、評議員を歴任しました。その他、FD委員会や2013年の山中湖センター90周年募金委員会では委員長を務め、国際経験と専門を生かしたリーダーシップを発揮しました。YMCAで活動する若者たちを温かく見守り、東京ワイズメンズクラブメンバーとしても積極的に活動するなど、YMCAの諸活動に広く貢献しています。

### 赤三角

2月6日、遠くトルコ・シリアでM7・8の大地震が発生しました。それから3カ月が過ぎ、建物の崩壊による死者が5・7万人、テント生活者が300万人と報道されています。▼高層建築物の崩壊による人身被害が多く、近隣各国は医薬品、医療従事者、救急隊を送りました。日本も自衛隊を派遣して救出活動を行いました。YMCAでも緊急支援募金を実施し、復興のための祈りに加えられたことを感謝します。▼復興には相当な時間がかかるでしょう。これから暑熱の季節を迎えるので衛生環境が心配です。家、愛する家族・隣人、遊び友達を亡くした人々の姿に言葉がなく、胸が痛みます。大きな困難の中で新しい歩みを始めた人々が、この苦難訓練を乗り越えられますように、地域に平穏が訪れますようにと祈りました。▼今回の地震で大打撃を受けたアンタキアは、聖書(使徒言行録11章)に記してある都市です。西アジア史を学ぶためにかの地を旅した際、路地裏の学習塾から少年たちの元気な学びの合唱が聞こえてきたことを思い出し、被災地の少年たちを思わずにはいられません。少年たちよ、強く、元気に、希望を持って、命を大切に。(ミッション委員 佐藤茂美)



# YMCAの国際協力活動報告

## Bangladesh YMCA 訪問報告

東京YMCA 国際・総合教育事業部統括 松本 数実



東京YMCAは、1990年に Bangladesh 90年に Bangladesh YMCAとパートナーシップを締結し、時代に合わせたさまざまな活動を行ってきた。大人の識字教育、避難用シェルター建設、子どもたちの教育支援、ワークキャンプ、ボランティアグループによる診療所や教育の支援活動などである。

今年2月、5人の職員が10年ぶりに Bangladesh シュYMCAを訪問した。訪問の主な目的は、東京YMCAが運営支援を続ける非公式の学校、NFPE(= Non Formal Primary Education/働く子どものための学校)を訪れることであった。

エディブルYMCAは、訪問団のメンバーから「Bangladesh シュの人になりたかった」という感想を知り、自分たちも感動した。また、



NFPEで学ぶ子どもたち

その場で引き受けて終わりではなく、ここから生活が始まる。戦争の影響を大きく受けるのは普通の生活者である。医師を目指して学んでいる若者が、日本に来て「あいうえお」から学ばなくてはならず、心が折れそうになる。将来の夢や仕事のキャリアがゼロになってしまふ、戦争の最も悲惨なことである。

現在の主な課題の一つは、勉強や遊びなど、たくさんの経験を積んで見識を増やす時であるのに、それら全てが奪われ苦しんでいる10代の層へどのようにアプローチするか。もう一つは、言語の問題や国家資格の制限により、自国でのキャリアを日本で生かせないという女性の就業問題。人間の尊厳には生きる希望が必要である。

戦争の一番の被害者は子どもである。子どもの教育を日本でのように守っていけるか。子どもを中心に、保護者、教員が話し合う機会の必要性と、この問題を包括的に捉えるコーディネーターの重要性を感じる。これから、全国のYMCAで取り組めないかと考えている。

## ウクライナ支援報告

日本YMCA同盟 YMCAウクライナ避難者支援プロジェクト責任者 横山 由利亚



現在日本には2,450人がウクライナから日本に避難を余儀なくされ、その半数、約1,100人の避難者と出会ってきた。口をそろえて「戦争になるとは思っていなかった」「こんなに長期化するとは思わなかった」と言う。戦争はわかりやすい形では始まらず、ひとたび始まったら簡単には終わらない。

ウクライナ支援活動のきっかけは、1本の電話。日本在住のウクライナ人から「年老いた母を日本に呼びたいが、母は『戦争はすぐに終わる。この年で日本には行きたくない』と言う。YMCAが手伝ってくれないか。」と助けを求められた。策は何もなかった。

その後、次々にSOSが届いた。すべてには応えられなかったが、生後2カ月の乳児から目の不自由なご老人まで、16人が日本で暮らす家族と再会を果たすことができた。YMCAのグローバルネットワーク、国際協力募金、祈りのおかげであり、誇りに思う。

しかし、家族と再会し



子どもワークショップ

## ユース ボランティア・オブ・ザ・イヤー Youth Volunteer of the Year

山中綾乃さん (オズ) / 社会人 / 山手センター / 2年以上

- ①YMCAリーダーである友だちの紹介。コロナで大学のサークル活動ができなくなり、何かやりたいと思った。
- ②どのように動けば相手のためになるか、自分にできることは何か、自分軸より相手軸で考えるようになった。
- ③周りにも自分にも寛容になってほしい。寛容になることは、優しさや想像力につながる。
- ④「学びと成長」。子どもやリーダーとの関わり方だけでなく、自分ができることできないことも学んだ。自分を形作る価値観を学び、それによって成長できた。



菅野さくらさん (かるた) / 大学院2年 / 南センター / 6年目

- ①小学生からキャンプに参加していて、リーダーが“かっこよかった”から。また、その時の仲間が先にリーダーになり、楽しそうだったから。
- ②人前に立つことへの抵抗が減った。街中で子どもが困っている時、自然に声をかけられるようになった。
- ③YMCAでの仲間を大事にしてほしい。YMCAでできたことを、幼稚園や学校で一步踏み出すきっかけにしてほしい。
- ④いろいろな価値観や人に出会える場所。新しい発見ができる。人とつながっている感覚が持てる場所。



先山 智さん (ロン) / 学生 / liby / 10カ月

- ①自分の社交的な性格が、メンバーと接するにあたって役立つのではないかと思ったから。
- ②YMCA内外で、取り組みに対して積極的になれた。
- ③素晴らしいリーダーがたくさんいるので、それぞれの良いところを感じ取って吸収して欲しい。
- ④自分の居場所



関 沙也香さん (パディー) / 大学4年 / 江東・東陽町センター / 約3年

- ①リーダー勧誘のハガキ。もともと、江東センターの定例野外活動のメンバーだった。
- ②子どもたちはまだ自分の気持ちを上手く言葉にできないために怒ったり泣いたり、意見が衝突して喧嘩になることもある。そのような中で相手の気持ちを汲み取って代弁する力や、我慢強く向き合い続ける力が身についた。
- ③人の悲しみに寄り添い、人の喜びを自分の喜びにできるような温かい人になってほしい。
- ④もう一つの家のような、大切な居場所。





# 「人を育てる」YMCAの研修

YMCAは、安全で魅力あふれる活動を行うためのトレーニングや、より良い社会をつくるための人材育成プログラムなど、多様な研修を実施しています。一部をご紹介します。

## ■ディレクタートレーニング

4月28～30日、「キャンプディレクターおよびウエルネス指導者資格認定研修会」が実施されました。東京YMCAで野外プログラムを担うスタッフの他、学校・居場所・アフタースクール部門のスタッフや、日本YMCA同盟と関東の各YMCAからの参加もありました。

研修ではYMCAキャンプの理解を深め、目指していききたい姿を共有しました。また、グループの関係性が構築されていく過程を体感したり、アクティビティの立案・実施を通して安全管理や指導法を再確認したりと、夏を迎えるための土壌も整えていきました。あたたかい社会をつくるために日々心を砕き奮闘する仲間がそれぞれの地にいること、彼らと思いを語り合えたことは私にとって大変心強いものとなりました。



YMCAのキャンプは単なるアウトドアイベントではなく、良き友人と出会い様々な価値観に触れることで、人としてバランス良く成長することを願ってデザインされています。「今後の変化を予測することが難しい時代」と言われる現代を生き抜いていく子どもやボランティアリーダーたちが、自分の足で立ち、自分で人生を切り開いてくための一助となるようなディレクターでありたいと、改めて感じた3日間でした。

(ウエルネス事業部 野外教育・ユース 沖津 桃)

## ■ボランティアリーダー研修

5月4～6日、「第54回全国YMCAリーダー研修会」が岡山県倉敷市の少年自然の家で開催されました。全国のYMCAで活動するリーダーが社会の課題に向き合う力を高めるための研修会で、リーダー同士のつながりを深めることも目的の一つです。東京YMCAから3人が参加しました。

今回のテーマは「Youth must go on～見えていないものが ほら そこに～」。コロナ禍で生活環境がさまざまに変化し、「ユース（若者）の力」を発揮しづらい社会になっている中で、「ユースの力」とは何か、社会がより良くなるために何ができるのかを考えました。

(ウエルネス事業部 野外教育・ユース 杉田裕樹)

以下は、参加したリーダーの感想です。

崎山祐弥さん（にっこー） ＊カッコ内はキャンプネーム  
「多種多様」

さまざまな分野で活躍するリーダーたちと出会い、意見交換をしたことで、普段は狭い中で意見交換していることに気付かされた。自分が参加する小学生生活動のリーダー会は、対象を小学生に限定して話し合われている。社会にはたくさんの方がいることを意識して、広がりのある話し合いをしていきたいと思った。

堀 清蘭さん（ぱびこ）

「東京Y スキ！」

より良いものをつくるために上下の関係を大切に、経験者が引っ張っていくスタイルが他のYMCAにはあることを今回知った。もちろん、その方法も良い形と思う部分もあるが、その形を知ることで、東京YMCAが大切にしている経験、年齢で分けせず、フラットな関係の中でより良いものを「みんなで作る」スタイルがより好きになりました。

## 東京-NY フロストバレー便り

\*ニューヨーク近郊の日系人を対象にキャンプ等を行っている「東京-フロストバレーYMCAパートナーシップ」。現地に向中のスタッフからのお便りを紹介します。

組織のトップが変わる瞬間に立ち会える機会はそうないかもしれない。昨年の夏以降、フロストバレーYMCAは20年間CEOを務めたジェリー・ハンコスキー（Jerry Huncosky）氏の後任を決めるため、理事会が本格的に動いていた。北米YMCA同盟のCEOサーチチームと協力し、現役スタッフの考えや意見をまとめることや、候補者選定が行われた。日本の感覚では、経験豊かな生え抜きスタッフの中から選ぶのが一般的である。だが、ここはアメリカ。幅広く公募を行ない、自分たちに必要とされる人材を追い求める。公募の場合、過去のしがらみがなく、思い切った改革が行われることが多いため、スタッフからは期待や不安の声が聞こえていた。2月、フロストバレーYMCA理事会は新CEOにリエル・ピアブームス（Riel Peerbooms）氏を選び、全スタッフへ報告した。その翌日には、SNSを通して参加会員や支援者に紹介した。ものすごいスピード感である。

オランダ出身の氏は、北米のサマーキャンプにカウンセラーとして参加したことをきっかけに、アメリカでのキャリアをスタートさせた。直近では、ニューヨークのブルックリンを拠点に、自然や環境とのつながりを通して若者の成長を助ける非営利団体のトップとして活躍した。YMCAでの経験はないが、教師やソーシャルワーカーを含むキャリアの大半をニューヨークの非営利団体で築いてきた。

3月3日に新CEOに就任し、すぐに全体スタッフ会で、自己紹介を織り交ぜながらフロストバレーYMCAの今後の姿についてプレゼンテーションを行った。SNSを通じたコミュニケーションも新しく導入され、新風を吹き込んでいる。方針の一つに『Shared Leadership（シェアド・リーダーシップ）』が掲げられ、予測不可能なこの時代に、迅速かつより適切な対応ができる新しい組織作りで早速着手している。4月には東京YMCA菅谷総主事とオンラインで挨拶が交わされ、期待と今後の進め方について意見交換がなされた。私自身も新たに学ぶことが増え、仲間の助けを得ながら新しくなった組織の一員として日々邁進している。

(東京-フロストバレーYMCAパートナーシップ 星住秀一)

## 2023YMCA世界大都市会議に参加

7月14日～19日、アメリカノースキャロライナ州のYMCAブルーリッジアセンブリにて、2023年YMCA世界大都市会議（YMCA World Urban Network）が開催された。北米、中南米、アフリカ、ヨーロッパ、アジア太平洋の大都市YMCA総主事、シニアディレクター約80人が参加した。



下記は、日替わりで論じられたテーマと内容である。

### 1. 「Self-Care（セルフケア）」

コロナ禍で傷ついた子どもたち、YMCAスタッフ、人々の心のケアについて考えた。YMCAは他者、地域社会への奉仕を優先しがちだが、自らのケアも大切。ケアしあう社会、絆により助け合うコミュニティーを築く重要性が述べられた。また、ウクライナYMCAのビクター総主事より、戦争で負傷した兵士がコミュニティーに戻り心のケアやリハビリが必要になっているなど、新たな課題が報告された。

### 2. 「Clarity（明確さ）」

今後のYMCAの中期計画をどう具体化するかが主な議題。コロナ後の現状をしっかりと踏まえ、ビジョン、使命、資源、計画を明確にすることが成功につながることを学んだ。

### 3. 「Inspiration（インスピレーション）」

他者を鼓舞し、動機付け、能力を伸ばすリーダーシップについて。レバノンYMCAでの医療提供や女性の職業訓練、シエラレオネYMCAのユースを鼓舞して目標を与えることにより職業を見つけるプログラムなどが紹介された。

### 4. 「Innovation（革新）」

社会の課題に対する新たな取り組み例の紹介セッション。プログラムを生み出す際の3つの視点（必要とされているか、実現可能か、継続可能か）が示された。私も、40年前にニューヨークでの日本人人口増加により始まった東京とニューヨークYMCAのパートナーシップについて紹介した。

大都市会議の真の目的はネットワークの強化である。今回の学びとネットワークの構築は、新たなYMCAに向けてのignite（点火、発火の意）となった。

(国際・総合教育事業部統括 松本数実)